

# 2019年度 学校経営計画

## 1 学校教育目標

「自主」 「誠実」 「実践」

普通教育と専門教育を徹底し、知・徳・体の調和のとれた全人教育を行い、豊かな人間性と正しい社会性の向上を期する。

## 2 学校の特徴

本校は大正13年に開校し、本年度、創立95周年目を迎えた全日制高等学校である。地域の要請と様々な期待に応えるべく、地域に密着した学校づくりを進めている。現在、全学年とも普通科3クラス、商業科1クラスを設置し、全校生徒数は474名である。多くの生徒は上級学校へ進学しており、就職者は10～20名程度である。普通科では、文系・理系に分けるだけでなく、多彩な選択授業を展開することで多様な進路の実現に応じている。商業科においても進学する生徒が多く、進学に適したジェネラルコースと、専門性を高めるキャリアコースに分かれている。

部活動では、インターハイ等の全国大会で数多くの優勝経験のあるホッケー部を筆頭に、吹奏楽部や甲子園出場経験のある野球部などが全国大会やブロック大会を目指している他、どの部も積極的に活動している。

## 3 学校の現状と課題

### (1) 現状

生徒はおおむね素直で純朴であるが、全体的に教員に依存する傾向があり、学習や諸活動に主体的に取り組む意欲・態度に物足りなさが感じられる。

### (2) 課題

#### (ア) 学習活動

- ・生徒に学習習慣を定着させるとともに、主体的、対話的で深い学びを推進するなどにより、生徒の基礎学力の向上を図ること。
- ・生徒が生涯にわたって学び続ける基礎を作ること。
- ・商業科における資格取得を支援すること。

#### (イ) 学校生活

- ・基本的な生活習慣を確立させ、心身ともに健全な人格を育成すること。
- ・情報モラル・セキュリティに関する意識を高揚させること。

#### (ウ) 進路支援

- ・生徒一人一人が自らの在り方・生き方を考え、主体的に自己実現に向けて取り組むようにすること。

#### (エ) 特別活動

- ・社会の一員として、より良い生活を自主的に築く態度を育成すること。

#### 4 学校教育計画

項 目		目標・方針及び計画	
(1)	学習活動 重点1①② ③	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が生涯にわたって学び続け、学びを人生や社会に生かそうとする力や人間性を育てる。</li> <li>○商業科で学ぶ内容を生かし、より多くの上級資格が取得できるように支援する。</li> </ul>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各教員が専門性を高めるとともに、「主体的で・対話的で深い学び」を推進するアクティブラーニング等の授業を工夫する等、教科指導力の向上を図る。教員は、授業の工夫・改善率を、生徒は授業や家庭学習についての取組みについて数値化し、<b>基礎学力を向上させる。</b></li> <li>○商業科では、授業で学んだ内容が資格取得につながることを認識させ、授業の中で知識・技術の習得を図る。朝・放課後や休日の質問教室にて基礎基本の演習を多く行うことで上級資格の取得に努める。</li> </ul>
(2)	学校生活 重点2①②	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○正しい判断力を養い、規則正しく責任ある生活態度を身につけ、心身とともに健全な人格の育成を目指す。</li> <li>○情報モラル・セキュリティに関する意識の高揚を図る。</li> </ul>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○高校生活に目的意識を持たせ、基本的生活習慣の確立と自らを律する心の育成を図る。</li> <li>○全校集会やホームルーム等の機会を通じて、<b>善悪の判断や規範意識の向上と規律正しい学校生活の確立を図る。</b></li> <li>○生命の尊重や安全について、集会等のあらゆる機会では指導の徹底を図り、交通安全についてはマナーの遵守と危険防止への継続的な指導を行う。</li> <li>○携帯電話の使用ルール、マナーの意識向上を家庭の協力を得ながら図るとともに、情報モラルやセキュリティの意識向上を図るため、授業などを通じてその危険性を十分理解させ、被害を未然に防ぐよう努める。</li> </ul>
(3)	進路支援 重点3①②	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒一人ひとりが、自らの在り方・生き方を考え、主体的に自己実現に向けて取り組めるように支援する。</li> </ul>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○適切な進学及び就職の指導を行い、<b>進路意識の向上と早期の進路目標の設定</b>に努める。</li> <li>○進路支援として取り組んでいる総合的な学習・探究の時間や進路ガイダンス、面接指導、大学等出張講義、インターンシップが進路決定に効果的に機能するよう工夫し、計画的に進め、ポートフォリオに集約させる。</li> <li>○進路実現に向けて学習面、生活面にしっかり取り組ませる指導を行う。</li> </ul>
(4)	特別活動 重点4①②	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○集団活動を通じて、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、社会の一員としてより良い生活を築こうとする自主的実践的な態度を育成する。</li> <li>○社会の諸問題を積極的に考察し、解決していこうとする姿勢を育てる。</li> </ul>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒会活動やホームルーム活動の<b>主体的な活動を通して、自主・自律の生活態度を養い、明るい活力ある学校づくりに努める。</b></li> <li>○身近なボランティア活動への参加推進と参加しやすい環境づくりを工夫し、公共心を備え、地域の期待や信頼に応える人格の育成を図る。</li> <li>○部活動等の課外活動も大切な人間形成の場であると位置づけ、適切な支援と指導を行い、活動の活性化を図る。</li> <li>○外部講師による教養講座等を企画し、生徒に考えさせる機会を提供する。</li> </ul>

## 2019年度 学校アクションプラン

富山県立石動高等学校

	重点項目	重点課題	達成目標	H30年度の状況と評価等
(1)	<b>学習活動</b> 学習習慣の定着と基礎学力の伸長 (教務部) (商業科)	基礎学力の向上と授業に対する取り組み方の改善(アクティブラーニングを含む)	①教員に対する「主体的・対話的で深い学びの取り組みアンケート」 <b>3以上(4段階)の割合80%以上</b>  ②生徒に対する「授業に関するアンケート(授業内容や指導方法に関する内容と生徒自身の取り組み姿勢に関する内容)」 <b>3以上(4段階)の割合85%以上</b>	・年度当初からの授業の工夫改善率を自己評価した。改善できた割合は79.4%だった。  ・H30年度は、生徒による授業評価を行っていなかったが、生徒からの授業評価もあればよいという意見があり、再度目標設定した。H29に同様の目標を設定しており、評価は82.9%であった。
		検定合格に向けて主体的に学習に取り組む能力の育成	商業科：卒業までに全商主催検定9種目中、3種目以上で1級を取得した生徒数 <b>10人以上(卒業年度)</b>	12名 評価A
(2)	<b>学校生活</b> 心身ともに健全な人格の育成 (生徒指導部)	規範意識の向上と規律正しい学校生活の確立	①携帯電話のルール違反による指導 <b>年間延べ30回以下</b>  ②携帯電話・スマートフォンの平日3時間以上使用率 <b>30%以下</b>	年間のべ61回 評価C ・携帯電話預かり指導 H29 延べ32回 ・ネットパトロール指導 H29 なし、H30は10名と急増。 ・携帯電話、スマートフォンの平日3時間以上使用H29年度46.2%、H30年度28.9% (携帯電話やパソコンに関するアンケートを年間2回実施)
(3)	<b>進路支援</b> 自己実現に向けて生徒自らが努力するための支援の充実 (進路指導部)	進路意識の向上と進路目標の早期設定	①1・2年生：ポートフォリオに活かすことができるような、オープンキャンパスや学校見学会、校外の研修会等への参加回数 <b>年2回以上</b>  ②3年生：2月中旬までの進路内定率 <b>進学 90%以上</b> <b>就職 100%</b>	①* H31年度新規目標 H30年度は、1・2年で進学希望者は、志望大学・学部・学科 就職希望者は、希望職業・業種・職種 の設定 2年 評価B 1年 評価A ②進学 79% 就職 100% 評価A
(4)	<b>特別活動</b> 学校行事を通して自主的な態度の育成 (特別活動部)	特別活動に対する主体的参加	①学校行事(体育大会、球技大会)に対する充実度 <b>4段階評価の3以上が80%以上</b> ②部活動に対しての充実度や結果に対する満足度 <b>4段階評価の3以上が70%以上</b>	①学校行事(石高祭)の充実度 83%  ②部活動の満足度 活動計画・内容 84.8% 活動時間・休日 82.5% 各種大会・発表会 60.3%  評価B

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

2019年度 石動高等学校アクションプラン - 1 -																															
重点項目	学習習慣の定着と基礎学力の伸長																														
重点課題	基礎学力の向上と授業に対する取り組み方の改善(アクティブラーニングを含む)																														
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学力差が大きくなってきており、全ての生徒の力を伸ばす授業づくりが難しくなっている。そこで「基礎学力の向上と授業に対する取り組み方の改善(アクティブラーニングを含む)」という重点課題を立て、教員、生徒が日々の授業を振り返り、授業に対する取り組み方を改善する。教員に対して授業に関するアンケートを年に2回（7月と12月）に行い、自己評価、改善を進める。同じ時期に生徒に対してもアンケートを行い、生徒からの評価を得るとともに、生徒自身も自分の取り組み方を評価し、振り返りの機会とする。</li> <li>商業科の生徒はそれぞれの目標を持って、主体的・意欲的に検定取得に取り組んでいる。検定に合格するためには、高校に入ってから学ぶ商業科目の基礎をしっかりと身に付けた上で、それぞれの検定に合わせて自らの力を向上させていく必要がある。授業においても、生徒の学力を伸ばし、検定取得につながるように、常に効果的な指導を模索し工夫していくことが求められる。検定取得が生徒の学ぶ意欲や進路目標の達成にもつながっている。</li> </ul>																														
達成目標	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>①教員への「主体的・対話的で深い学び」を推進するアンケートで <b>3以上の割合 80%以上</b></p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>十分達成できた。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>まあまあ達成できた。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>あまり達成できなかった。</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>ほとんど達成できなかった。</td> </tr> </tbody> </table> <p>②生徒への「授業に関するアンケート」で <b>3以上の割合 85%以上</b></p> <p>① 授業内容・説明の理解度 ② 授業のスピード ③ 説明の言葉や声量 ④ 授業内容への興味・関心 ⑤ 思考力・判断力・表現力を高める活動 ⑥ 主体的・対話的な学び⑦ 質問への説明 ⑧ 課題の質や分量⑨ 授業の開始終了時刻 ⑩ 生徒への指導</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>とてもそう思う。大変評価できる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>だいたいそうしている。ほぼ評価できる。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>そうしていないことがしばしばある。あまり評価できない。</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>いつもそうしていない。まったく評価できない。</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="width: 45%;"> <p>③商業科：卒業までに全商主催検定9種目中、3種目以上で1級を取得した生徒数 <b>10人以上（卒業年度）</b></p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tbody> <tr> <td>(1)簿記</td> <td>(6)珠算</td> </tr> <tr> <td>(2)ビジネス文書</td> <td>(7)電卓</td> </tr> <tr> <td>(3)ビジネス情報</td> <td>(8)英語</td> </tr> <tr> <td>(4)プログラミング</td> <td>(9)会計実務</td> </tr> <tr> <td>(5)商業経済</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> </div> </div>	評価	評価基準	4	十分達成できた。	3	まあまあ達成できた。	2	あまり達成できなかった。	1	ほとんど達成できなかった。	評価	評価基準	4	とてもそう思う。大変評価できる。	3	だいたいそうしている。ほぼ評価できる。	2	そうしていないことがしばしばある。あまり評価できない。	1	いつもそうしていない。まったく評価できない。	(1)簿記	(6)珠算	(2)ビジネス文書	(7)電卓	(3)ビジネス情報	(8)英語	(4)プログラミング	(9)会計実務	(5)商業経済	
評価	評価基準																														
4	十分達成できた。																														
3	まあまあ達成できた。																														
2	あまり達成できなかった。																														
1	ほとんど達成できなかった。																														
評価	評価基準																														
4	とてもそう思う。大変評価できる。																														
3	だいたいそうしている。ほぼ評価できる。																														
2	そうしていないことがしばしばある。あまり評価できない。																														
1	いつもそうしていない。まったく評価できない。																														
(1)簿記	(6)珠算																														
(2)ビジネス文書	(7)電卓																														
(3)ビジネス情報	(8)英語																														
(4)プログラミング	(9)会計実務																														
(5)商業経済																															
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>早い時期に、生徒、教員に対してアンケートの内容を知らせることで、日頃から向上を目指すポイントを意識して授業に取り組めるようにする。</li> <li>朝や放課後の補習授業を実施する。</li> <li>商業関連部活動を充実させる。</li> <li>3年生1級未取得者に対する特別受験指導を実施する。</li> <li>教員の指導力向上のための校内研修会を充実させるとともに、校外で開催されるセミナー等へ積極的に参加するよう努める。</li> </ul>																														

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	学校生活（心身ともに健全な人格の育成）
重点課題	規範意識の向上と規律正しい学校生活の確立
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スマートフォンの普及に伴い、使用ルールやマナーを守らない生徒や依存症の生徒も見られる。</li> <li>・携帯電話の違反数が平成29年度は延べ32回、であったのに対して、平成30年度は延べ61回と急増した。また、ネットパトロールからの報告で指導した生徒は、平成29年度は、無かったの対して、平成30年度は10名と急増した。</li> <li>・携帯電話やパソコンに関するアンケート結果より、携帯電話・スマートフォンの平日3時間以上使用している生徒は、平成29年度46.2%、平成30年度28.9%となり、長時間使用が、生活のリズムを崩し、家庭学習時間の確保の妨げになっている。</li> <li>・昨年度同様に生徒が自ら学校ネットルール4箇条を決定し、働きかけたが、規範意識の低い生徒も多い状況である。</li> </ul>
達成目標	<p>①携帯電話の違反数（ルール違反・ネットパトロールによる指導）の延べ指導回数 <b>年間のべ30回以下</b></p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>②携帯電話・スマートフォンの平日3時間以上使用率 <b>30%以下</b></p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯電話で違反した生徒には、携帯電話を預かり、保護者の協力を得ながら、違反者本人に反省を促すと共に、使用に関してのルール、マナーの意識の向上をはかる。</li> <li>・イレブンセブン運動を積極的に推進し、携帯電話やパソコンに関するアンケートを年間2回実施で実態を把握し、夜11時以降の使用を控えさせ、ネット依存にならないよう指導を行う。</li> <li>・情報モラルやセキュリティの意識の向上を図るために、授業だけでなく学習する機会を増やすと同時に教職員も携帯電話に関する知識を深める機会を作り、生徒への指導を充実させる。</li> <li>・家庭でのルールの設定やスマートフォンの使用について話し合う機会を持つ等、PTA総会や各学期の保護者会等で保護者への協力を要請する。</li> <li>・生徒主体の活動を通じて、生徒自身で考え注意できる環境を作る等指導の充実を図る。</li> </ul>

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	進路支援（自己実現に向けて生徒自らが努力するための支援の充実）	
重点課題	進路意識の向上と進路目標の早期設定	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の生徒の進路選択とその実現のために本校独自の様々な進路支援プログラムを行っているが、各プログラムを積極的に自己の進路につなげて考えようとする姿勢が足りなくなっている。</li> <li>・早期に具体的な進路目標が決まらず、進路の目標実現に向けての学習意欲に結びついていない。また、受験に向けた学習への取りかかりが遅い生徒が多い。</li> <li>・大学入試制度の改革に伴い、学んできた過程を評価するポートフォリオに対する対応が必要となっている。</li> </ul>	
達成目標	①1・2年生：ポートフォリオに活かすことができるような、オープンキャンパスや学校見学会、校外の研修会などへの参加回数 <b>年2回以上</b>	②3年生：2月中旬までの進路内定率  <b>進学 90%以上</b> <b>就職 100%</b>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の進路支援プログラムの事前・事後の進路学習を充実させ、進路研究につなげ、進路意識の高揚を図る。</li> <li>・新テストに対する情報を提供し、長期の目標を持たせると共に、ポートフォリオを活用して自己の活動内容を記録させていく。</li> <li>・オープンキャンパスや学校見学会の情報を提供し、休業中の課題等にするなどして参加を促す。校外研修会についても、必要に応じて声かけを行う。</li> </ul> <p>（支援プログラム）                  進路集会・大学等出張講義・PTA自前講座・進路学習・進路講話・大学訪問・OBと語る会・卒業生と語る会・インターンシップ等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学習内容や意欲などの実態を正確に把握することにより、進路目標の実現に向けた適切な支援を行う。</li> <li>・個々の生徒の学力や志望校の出題傾向を踏まえて、集団指導（補習・進路集会・進路情報冊子の活用）や全職員による個別指導（教科添削・面接・小論文）の充実を図る。</li> <li>・入試の過去問を採り入れて実力判断をしたり、過年度生の成績と進路の相関関係を照らし合わせるなどして、学習指導、進路指導を効果的に行う。</li> <li>・本校の進路支援プログラムと個別面談を効果的に利用し、志望校・志望学科を早期に決定する。</li> </ul> <p>（支援プログラム）                  進路集会・進路講話・就職ガイダンス等</p>

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	特別活動（学校行事を通して自主的な態度の育成）
重点課題	特別活動に対する主体的参加
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事である体育大会や球技大会では、生徒達は意欲的に取り組む姿が見られ、これらの集団活動や体験的な活動を通して、豊かな学校生活を築きながら自主性や連帯意識を育んでいる。</li> <li>・本校部活動数は運動部13、文化部10あり、部活動加入率は運動部約63%、文化部約33%、全体で約96%と、多くの生徒が部活動に参加している。</li> </ul>
達成目標	<p>① 学校行事（体育大会、球技大会）に対する充実度 <b>4段階評価による3以上が80%以上</b></p> <p>② 部活動に対しての充実度や結果に対する満足度 <b>4段階評価による3以上が70%以上</b></p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動を充実させ、代議員会等の適宜開催するなどして、生徒の視点から参画させることで、より多くの生徒が主体的に関われる活動の機会を設ける。</li> <li>・部活動登録後、全体計画・活動内容等を部員と話し合い、個人や集団の実態に応じた目標を持たせる。</li> <li>・学校行事や高体連並びに高文連主催の各種大会等後にアンケートを実施し、その結果を踏まえ、今後の活動に検討・改善を行う。</li> </ul>

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）